

課題解決に関する区民意見（全文）

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
1	八十才	無職	<p>課題1</p> <p>我々が、日常生活する上での常識は、どこから来るのか、常識を理解し認識し設定すること。人は生まれ育った、環境や教育によってその性格は形作られると思うのですが、しかし何より大切なのは、その人の生まれながらに持った、根元的な性格だと思います。その中の一つに人に対するやさしさ、思いやりの心を基本的に持っているか、何の条件もなしに公正公平に人の心を受け入れることが、出来るか？ 例に問題があると思いますが、釈尊は、「山川草木悉皆成仏」と唱えていますが、ある種、民主主義の基本的な言葉をどれ程、我々は日常の中で認識しているか大切な処だと思います。又ある哲学者の言う処の「真理は我らを自由にする」と言っておりますが、前述の意味合を含めて、日常の生活の中で、いかに我々がこのことを知識として認識しているかと、言うことです。</p> <p>私はこの処コロナ禍の影響で、福祉センター等には行っておりませんが、過去に度々、お世話になって感じたことを記します。業者の方が、委託を受けて行う仕事は、ある程度、委託するサイドの要望があつてある程度、成果が求められることと思います。私が最近感じたことは、当初、私がお世話になった頃と（七・八年位前）少し変わったかなと思います。最初センター等を訪問した時は、年取ってこんな楽しめる処があるのかと、感激したことを今さらながら、しかしこの処、私自身が老いせいか、マンネリな生活をしているせいか、熱意が感じらなくなりました。もちろん最大の理由は利用する人々の、常識そのものが違いますので、一人一人に施設が対応することが無理からぬことと思います。施設も常に試行している状態だと思います。これはあくまで私一人の感覚でありますので、そのことはお断りしておきます。具体的な利用者との対応は控えますが、もう少し、施設の方々と老人達との、マンツーマンのコミュニケーションが必要かなと思います。もちろん利用者の性格等に問題があったとしても、その心の中まで介入することは出来ません。私は何年か前ボランティアである、認知症介護施設で仕事をすることがありました。その時介護職員のスバラしい仕事ぶりが、今でも頭にあつて、そのことが基準になつてこんなものを書いたのかも知れません。</p>	<p>人に対するやさしさ、思いやりの心、公正公平に人の心を受け入れること</p> <p>施設職員と利用者のマンツーマンのコミュニケーションが必要</p>
2	*	*	<p>これは施設に行っていた折、仲間の皆さんに参考として私が提出したものです</p> <p>山川草木悉皆成仏<おしゃか様の言葉></p> <p>至誠即脱<他人を思いやること></p> <p>物事を判断するときには、客観的で平であること。</p> <p>攻めるよりも、守ることの重要性。</p> <p>他人の領域は、自分の領域ではない。</p> <p>人それぞれ、独立した個人であることの大切さ。</p> <p>そして、個々の人間がそれぞれ自分自身の思想、意思を持っている</p> <p>我慢すること、耐えること<ストイック心を持つこと></p> <p>人は自分より、向上心を持っており、かつ、自分より多くの勉強をしていることを認識すべき。</p> <p>他人とのバランス、スペース、距離を保つこと。</p> <p>人を思いやり人の心を尊重すること。</p> <p>他人が自分に対して関心を持っていてくれるか？</p> <p>ユーモアとエスプリの使い分け。</p> <p>思慮深さと謙虚さ。</p> <p>常識の使い分け。</p>	<p>共生の心の大切さ</p>

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
3	47歳	主婦、パート	<p>課題2について</p> <p>私が住む場所でも、高齢化と担い手不足は深刻です。管理組合はそれでも何とか住民内で交代し新陳代謝が行われていますが、2年縛りのため、問題の先延ばしが多く何かを実行するには時間がかかるようです。</p> <p>より深刻なのは町会活動です。こちらは地域コミュニティとして、今後の役割がもっと必要とされるはずのものと考えます。現在のメンバーが長いこと支えてきてくれましたが、一定の年齢で気心の知れたお仲間の方ばかりのため入り込むには勇気が必要です。私は祖父母から3世代でここに暮らしています。そのため、上の世代の方には抵抗なく入っていくことができます。そしてふたりの小学生がいますので新しい入居者の方とも接する機会があります。独身世代には地域の役割や、意味など考えもしませんでした。今、母になり、親の介護を肌で感じて福祉や地域コミュニティの大切さを切に感じるのです。微力ながらも動かなければ始まらない。このように区報で声を聴いていただけることは、対策を欲している者がいると知っていただけるチャンスとも思い、感謝しています。</p> <p>まず、町会参加は任意です。入らないという選択をされる方が増えています。自分がそうであったように、必要性を感じないからです。子育てをしていても、もしかすと感じない方もいるでしょう。必要だとしても自分にはリンクして考えられないのかもしれないかもしれません。義務教育中に道徳の時間で、人生について、社会について、地域活動について、もっと身近な話題で考えさせてみるのはいかがでしょうか。文科省が絡んでくると実行は難しくなるのかも知れませんが、蒔かぬ種は生えぬです。SDGsに積極的な土地では幼稚園から教育をしています。大人と子供は感化しあいます。習ってきたことは必ず家庭に入り込みます。案外と多忙で固定概念を持つ大人を変えるより早いかもしれません。</p> <p>次に、就職、結婚の場面で地域の活性化について具体例や活動内容の冊子を配布します。子供ができてから遊び場や不審者情報、不慣れた土地での孤独に悩むのでは遅いのです。多くの人は事情に問題を察知することができません。若さやパワーがある人はなおさらです。しかし、誤った自立は孤立を招きます。もし、困ったときに周りの人が助けてくれたらどんなに心強いでしょう。そういったことを知らないから必要を感じないのです。それを伝えるための冊子です。子供がいてもいなくても、災害対策の一環として、町会は必須です。さらに町の治安、顔見知りがあることの安心感、これらは1人では作れないし、1日1日の積み重ねでできる貴重なものです。赤ちゃんは沢山の人の声掛けで愛されていることを学ぶそうです。人は死ぬ時まで自分のしたいように生きたいそうです。社会と切り離しては成り立たない私たちの生活は地域あつてのものだと言ったら、大げさでしょうか。分かっている、知っている、当たり前、は結構な盲点です。言い訳の常套句でもあります。大切なことは何度も繰り返して、様々なシーンで手を変え品を変え発信して実践してもらおうとまで伝えます。本田宗一郎さんの名言にもあります。</p> <p>町会組織はまず、加入者数を増やす。そして、組織運営のためのメンバーがありますが、このメンバーは固定化しないようにある程度の周期で回す必要があります。生活に密着する分、なれ合いや過剰な仲間意識は機能に支障があるためです。町会を批判する目的で屁理屈を言う人を生み出さないためにも、新しく改革的な意見を取り入れるためにも、今までの会員とやり方を決して邪険にはしてはいけない。新しい人材や発想を面倒臭く感じてはいけない。みんな違って当たり前、なのに多様性を目の当たりにした時、厄介だと感じるのはなぜでしょうか。恐らく伝え方に問題もあるからでしょうし、積み重なった前例の印象が最悪だったこともあるのでしょうか。</p> <p>関わる人が多いほど、そして出来事を共有すればするほど、いざこざのほとんどは解消されるのではないかと考えます。コロナで会話も減り、愚痴をいえる場所も機会も減り、移動することも、金銭面もきつく感じてる人はどれだけいるだろう。私の暮らす町会メンバーたちは各高齢者宅へ電話を掛けたそうです。それが思いのほか大変、感謝されたそうです。こういった地味な活動は残念なことあまり知られていないのです。慈善活動の難しいところは伝えなければ分かってもらえないが、偽善に見えたり個人情報絡んだりして公表しにくいところ。そのためにも全体意識、認知の冊子が必要です。地域活動のひとつひとつの範囲は狭いので事例は個人が特定されやすいです。しかし〇〇地区、江東区、と範囲が広い情報なら活動自体の認知になります。</p> <p>本当はどの世代も積極的に取り組んでいくべきなのですが、一番の頼りである中間層は時間も余裕もないのが実情です。学校のPTAすら手が出ないのに必要性を感じない町会活動なんて頭にも浮かばないでしょう。私のことを時間とお金に余裕があるモノ好きな人と思う人もいます。でも実際はナイナイだらけで人のいいお節介な人です。そしてこれを好きでしているならいいじゃないかで終わらせたくない。少しでも地域福祉の必要性を多くの人に知ってもらいたいです。長くなりましたが、広報活動としての冊子配布を提案します。この冊子は心と頭にスッと浸透しなければいけません。堅苦しさを感ぜない、簡素化したデザインや絵、カラフルでおしゃれなイメージにして、子供から外国人、高齢者やディスレクシアの方、誰もが理解できる明確さが重要です。</p>	<p>町会活動の高齢化と担い手不足の問題は深刻 社会や地域活動について義務教育の道徳の時間に考えさせる 機会の創出</p> <p>地域活性化について具体例や活動内容の冊子を配布(就職、結婚の場面で)</p> <p>町会組織の人材流動を進める運営方法の導入</p> <p>町会活動を区民に周知する冊子の作成</p>

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
			<p>最後に、課題の全てに通じますが、なにか問題に出会ったとき、もっと迅速で細やかに対応してくれるパイプが必要ではないでしょうか。近年はマンション管理者の常駐業務廃止もあり、トラブルは増加するでしょう。今現在も「マンション交流会」などご用意いただいておりますが、日時、相談内容を設定されていて、利用者としては少々距離を感じます。例えば自治会や町会ごとに担当のコンサルタントをつけていただき対応を今より頻繁に行えるようにする。あとは、コロナでzoomも利用度が上がりまし、定期的に勉強会を発信するのはいかがでしょうか。意識の共有化です。目的地や行動理由を常に個々が意識しなくては大きな波は作れません。講師には大学教授や専門的に研究をされている方です。普段活動に参加できない若い方も、これには参加してくれると思います。現場と取り組みを推進する区、そこに研究者の理を加えられたらより安定した暮らしが実現するかと思います。仕事において、課題の到達度を高めるには「相談できる人が近くにいるかどうか」で変わるそうです。知識、情報、影響力を自分が身に着けるとなると大変なことです。助けてくれる人がいて、すぐに頼れるなら、こんなに強いことはないです。これは仕事も家庭も地域も全てに共通していると思います。</p> <p>江東区は住みよい町。都心へのアクセスが良い、水と緑、伝統と文化、そこに「町ぐるみのメンターシステムがある」が入ったら最強区の誕生です。お仕事としていつも取り組んで頂いている役所の皆さまにえらそうな事を大変失礼と思いながら、出させていただきます。ご一読いただければ幸いです。</p>	自治会や町会ごとの担当コンサルタントの設置 (行政によるプレイヤーのヘルプやサポートを行うメンターシステム)
4	60代	会社員	<p>課題10、17</p> <p>弊社は防災用として段ボール製のベッド・パーテーション・床敷きなどの企画販売を手掛けている会社です。今回 区報を読み高齢者・障害のある方でベッドをお持ちでない方にベッドを支給して、日常生活・行動に少しでも役に立てて頂くというのは如何でしょうか。寝起きが楽になる事で非常に喜ばれると思います。弊社の営業内容となりましたが、ご検討ください。</p>	防災用段ボール製ベッド・パーテーション・床敷きなどの支給
5	50代	専業主婦	<p>課題1～19について、意見させていただきます。</p> <p>課題やその対象者、取組実行者、該当施設、行政担当部署が多岐に渡る為、まずはそれをそれぞれ表に書き出して(該当するものに○をする等)明確にし、整理してはどうでしょうか。的が絞られ、取組み方法を具体的に発想しやすくなったり、複数の課題の関係性、連携が見えて、解決に繋がりがやすくなるように思います。</p> <p>例:課題1.身近に集える場</p> <p>対象者:乳幼児、小中学生、高校・大学生、社会人、父母、高齢者等</p> <p>場所:区施設、民間施設、マンション集会所、店舗、空き家・店舗</p> <p>関係部署:○○部、、、</p> <p>費用(ハード)(ソフト)</p> <p>またその課題が費用的にハード面、ソフト面で解決する、できるものなのかによっても、早い解決に繋がるように思います。それによって課題の順番、課題の中の優先順位も変わってくるのではないのでしょうか。</p> <p>例:主にハード→課題7、15?情報、連携?それ以外</p>	取組内容の具体的な明記
6	50代	専業主婦	<p>課題1～19について</p> <p>各課題が、長期計画にも掲げられているSDGsのどれに該当するのかがわかると、関連性が見えたり、長期的視野で考えたりイメージできて良いように思います。</p>	取組とSDGsの関連性の明示
7	40代	会社員	<p>課題15</p> <p>・聴覚障がいを持つ方々は最近FAXを持ってる人が減少してきている。ICTを活用するべく、電話リレーサービスみたいに区役所に対する問い合わせをオンラインかつ、手話のできるような仕組みづくりを検討してほしい。</p> <p>課題16</p> <p>・手話のできる区役所や各施設など職員のネームプレートに手話できますバッジをつけてほしい。</p> <p>課題11/13/15</p> <p>・江東区のLINEページを作って放送内容、災害時の情報共有等検討してほしい。(今はメール配信という形だが)</p> <p>・LINEの活用</p> <p>課題7</p>	<p>聴覚障がいと行政の連絡体制の工夫</p> <p>行政窓口の聴覚障がいへの配慮</p> <p>LINEを介した情報共有補法の導入</p>

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
			・施設だけではなく、江東区バリアフリーマップがあると良い。どこにエレベーター、エスカレーター、身障トイレがあるかなど。バリアフリー化していなければ区からの補助でバリアフリー化推進してほしい。みんなのバリアフリー街づくり条例制定。	バリアフリーの推進(区全体の街なかバリアフリーマップ作成、推進条例の制定)
8	50代	一般社団法人 運営代表	課題2、課題9、課題16において、現在江東区子ども家庭支援課さんと取り組んでいる 虐待予防研修プログラム を 地域ネットワークの構築 あらゆる暴力の防止 ボランティア等福祉人材の確保・育成 といった、市民教育として展開できると考えています。	虐待予防研修プログラムの市民教育への展開
9	70代以上	会社員	課題18について 今、ヤングケアラーの問題に関心を持っています。国が対策を進めつつありますが、やはり一番身近な区が主体となって取り組んでいただきたいと思っています。	ヤングケアラー対策
10	60代	派遣社員	アンケートにこの様内容で送信したいと思いますが、無駄でしょうか？ 課題7施設等のバリアフリー化 先日、高齢の友人と大島区民センターへ期日前投票に行きました。友人は長い歩行は無理なので車で行き、駐車場から2階会場へシルバークートを押しながら向かったのですが、歩道しか平坦な道が無く、歩道を歩きましたが道幅が狭く自転車が行き交い、横に付き添う事も出来ませんでした。駐輪場の整備や入口付近での車の昇降が、多少時間を掛けても可能であればとつく尽く感じました。休日診療所、入口が階段でなくスロープに成っていれば、そこからセンター内に入れ、一番安心、安全と思います。是非ご検討を！	区民センターのバリアフリー化

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
11	60代	専業主婦	1.身近に集える場 私は趣味のひとつとして、コーラスをしています。コロナ禍においては、練習はままならない状況ではありますが、常日頃から会場を確保するのに苦労しています。そんな時に、団員の方が住んでいるマンションの集会場が使えれば、有難いのにと皆で話しています。気軽に集える場の創設といっても、新たに江東区として文化センター等を建設するには、お金も時間もかかります。そこで、前述したマンションの集会場を、江東区として賃借料等を負担して頂き、地域の交流の場として、活用させてもらえるように尽力して欲しいと思います。	マンションの集会場を区で借り上げ、交流の場に活用
12	40代	会社員	課題1 空き店舗や空き施設などが見込まれるが、特に公共施設の稼働率を踏まえ、活用が少ない施設があれば積極的に活用・開放してほしい。 課題2 課題11 災害時の避難体制(広く言えば地域コミュニティ醸成)について、集合住宅が目立つ江東区においては、地震や水害発生時に、堅牢なマンション等の居住者の協力が必要であり、ハード・ソフト両面で、戸建てと集合住宅の連携、ないしは、町会と自治会の連携を促す取り組み(独自の協定を結んだらインセンティブ付与など)を検討してほしい。 課題15 新型コロナウイルスワクチン接種の申込み時における高齢者の混乱状況を見ると、ICTを推進していくとしても、高齢者が置き去りにならないよう配慮が必要。	公共施設の積極的な活用・開放 マンション住民と町会・自治会の連携を促す仕組み ICT推進における高齢者等への配慮
13	40代	会社員	課題13 行政や社会福祉協議会、地域団体等が、広場やサロンのほか各種相談場所等、色々取り組まれているとおもいますが、それらが一目で分かる大変ありがたいです。区全体や地域ごとの社会資源を地図にまとめてもらおうと思います。	区全体や地域ごとの社会資源マップの作成
14	70代以上	個人事業主 児童福祉	課題⑨について 高層集合住宅に住む人口が80%に迫り、子育て世代は、出産と同時に地域や社会から孤立する環境を経験します。家庭が孤立する中で、DVや虐待問題も多発しています。現在区内でこういった状況を踏まえ、民間で小規模ながら居場所の提供をする区民の活動が生まれてきています。私が主催する広場の特徴は、支援センターでは経験できないアットホームな居場所として活動しています。今後の課題として取り上げて頂きたいのは、子育て世代が、ベビーカーや自転車を利用できる場所が、小学校区に1カ所あれば子育て世代のケアが充実し、結果DVや虐待予防となり安心して楽しく子育てできる江東区になると考えます。 課題②、③、⑥は互いに関連性を持った事業と言えます。要は担い手の育成です、区内の民間団体が昨年開始した「子どもの人権ソーシャルワーク養成講座」はこの課題を解決する手がかりと考えます。それぞれが始めた子育て支援事業も点在していますので、マップや事業者のネットワーク作りに取り組んでいただきたいと思います。	子育て支援拠点の拡充(小学校区に1カ所) 点在する子育て支援事業マップや事業者ネットワークの構築
15	50代	専業主婦	課題1.集会所、商店街の空き店舗、マンション共有スペースの有効活用:毎月定期的にカフェや物販販売、講座、イベント、相談等を行う。 区施設に定期的にキッチンカー配置(ドリンク、食事、物販)して交流の場とする。 その場で悩み事、区の課題解決へのアイデアを付箋に書いて掲示、共有、収集する。ボランティア紹介、登録が行える等。 課題2.親子共に小中学校位まで持っていた地域との関係を維持、活用する仕組みを作る。 マンション、町会毎に役員、大人だけでなく、子供も担い手として参加、協力する仕組みを作る。 世代や立場毎に定期的、単発的に活動できる場、機会を設け周知する。 課題3.区職員、民生委員が窓口や電話で相談されるのを待つだけでなく、集会所や人が多く集まる民間施設で平日や休日、定期的に相談を受ける日や場を設ける。 課題4.担当部署を設ける。 各部に連携担当者を設け、問題の収集、課題の発見、共有、担当者同士で定期的にWS等を行う。 課題5.担当部署を設け、まずは各部署、部署間に対応した問題の内容、状況を把握し、集計。	民間施設等の有効活用 区施設への定期的なキッチンカーの配置 交流場所での福祉ニーズとボランティアのマッチング 親子共に学校時代の地域との関係を維持、活用する仕組み マンション、町会に子供も担い手として参加、協力する仕組み 世代や立場毎に活動できる場の設置(定期的、単発的) 区職員や民生委員が地域に出向いて定期的な相談機会の設置 庁内各部に連携担当者の配置、担当者同士の定期的な情報共有 各部署の担当者による定期的な相談の開催、各部署間の定期的な情報共有

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
			区民から相談を受けた際には、他に悩み事、相談したいことがないかを確認。あれば担当部署へ繋ぐ等対応し、問題解決、連携に繋げる。	各部署の対応や相談のコーディネートを行う担当部署の設置
			課題6.まずは各団体が日々の活動以外に、団体としてどの分野、課題にどこまで何人位協力できるのかを確認、把握、必要に応じて依頼。	既存会議の形骸化。団体の活動意思や課題の共有と解決方法の協議
			既存の会議、繋がりが形骸化していると思われる。課題の共有、解決方法についても話し合う。	
			課題7.子育て世帯、障害者、高齢者等のバリアフリーの必要性、バリアフリーにすることについてのメリットを区民、区職員、民間企業、個人事業主にまで理解を広める。	区全体のバリアフリーの普及啓発
			補助犬を連れて来店を断られたという話を聞く。2021.7.11こうとう区報に『身体障害補助犬法』公共施設や交通機関だけでなく、スーパーやレストラン等の民間施設も身体障害のある方が身障者補助犬を同行することを受け入れる義務がある』とあったが、民間施設全てがそのような義務があること、対応の仕方を知っているのか、理解されているのかの確認、徹底、把握する必要があるように思う。	
			課題10.同じような立場、年代が協力して課題解決に向けた事業に参加できるような仕組み、そのような場やイベントを周知、募集する。	同じ立場、年代が課題解決に向けた事業に参加できる仕組み、イベントの周知
			自立へのステップがわかる区の実践、取り組み、成功例、体験談を周知する。	自立のステップがわかる区の実践、体験談の周知
			課題11.まず災害(地震、水害等)に対する支援の違い、曜日時間帯毎にどんな支援がどんな人、どれ位の人に必要になるのかの想定、共有をする。	災害時避難行動要支援者のきめ細かな想定(支援の種類、曜日、時間帯)
			情報収集、状況把握できる範囲、単位(個人、マンション、学校等、企業、町会、地区、エリア)や方法(ツイッター等)を検討する。	避難行動要支援者の状況把握方法の検討
			課題13.対象年齢、立場によって区HPの表示の優先順位を変えられるようにする。	区HP表示の可変化(対象年齢、立場に合わせる)
			SNS、AIの活用。	SNS、AIの活用
			課題14.区HPで関係者が情報共有、提案等ができるようにする(パスワード設定)	区HPで関係者が情報や提案の共有化
			課題16. 区HPで分野、取組、事業、イベント毎にボランティア募集、応募、登録ができるようにし、情報発信、情報共有し活動に繋げる。	区HPで分野、取組、事業、イベント毎にボランティア募集・応募・登録、情報発信、情報共有を可能に
			課題17.区HPで各福祉事業者毎の特徴、様子を映像で紹介する。	区HPで事業者情報を映像等で紹介
			各福祉事業者の評価一覧を公開する。	区HPで事業者評価一覧を公開 ※注:東京都福ナビで公開済み
			課題19.まず区職員が区民の立場毎の状況把握、問題を理解、共感し、他人事でなく自分事として考える機会、研修等が必要と思う。	区職員の研修
			同じ立場にある区民が意見しあえる、意見を出せる機会、場を設ける。また区HP等で意見を募集、収集、周知することで同じ立場にある人、ではない人も共有し、妊婦、子育て世帯、高齢者、障害者、外国人等への理解を深める。	区民が意見交換をできる機会の設置 区HP等を用いて意見の募集・収集・周知
16	73歳	無職	江東区地域福祉計画の策定について	
		(数人で考えながらまとめました)	課題1	
			・カフェがあるが、曜日や時間制限があり使いづらい。地域に対して数が少ない。	カフェの増加、曜日・時間の拡大
			・創設ではなく今現在ある施設の有効活用が先だと思います。各自治会や町会に集会場はあるが、設備が一様に老朽化しており稼働率も低い状況。区による支援があればもっと活用されると思います。	施設の有効活用、集会場の設備充実の支援
			・そもそも集える場がどこにあるか、定期的アナウンスすることが必要と考える。	集える場の周知
			・商店街の空き店舗やUR団地・公社団地・都営住宅1階の空き店舗の活用、地区集会所、町会会館、自治会集会所など、既存施設をできるだけ活用しながら、少なくとも小学校区に最低3つ(母子、高齢者、障がい者が安全に集え、交流できる場)、災害時も避難所として活用できる場所を確保する。	既存施設を活用し、小学校区に3つ以上確保(母子、高齢者、障がい者の交流、避難所)
			課題2	
			・自治会による連合会はありますが、それをまとめるハブとなるべき事務局と呼べる部署がしっかりと確立され、情報をそこで一元管理できれば地域ネットワークがしっかりと出来る礎となると思います。	自治会をまとめる事務局機能の確立
			・事務局の首頭で少なくとも年1回「身近な集いの場」の活動報告会、PR会、交流会の開催や紙・雑誌の発行	年1回「身近な集いの場」の活動報告会、PR会、交流会の開催、紙・雑誌の発行

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
			課題3	
			・どこに相談してよいかアナウンスがわかりづらい。そもそも自分たちが困っていることを他者に話すのは嫌と思っている。見守りなどして拾い上げていく必要がある。	相談場所の周知。相談をためらう人を見守りを通じて拾い上げ
			・現在個人情報保護の観点から民生員含め社会活動を行う人たちの活動に大きな制限があります。まずは、自治会及び民生員などのインフォーマルな力の結びつきをしっかりとするための地域連携会議等の開催を増やし、その中で見守りサービスなどのより充実した体制の構築が必要と思われます。総合相談窓口を設置し、専門性のある職員を配置。長寿サポートセンターの増設。	地域連携会議等の増加。見守りサービス体制の構築。総合相談窓口の設置、専門職員の配置。長寿サポートセンターの増設
			課題4	
			・親は介護保険利用、子供は障害利用、しかし双方の連携がなく、お互いどのようなサービスを利用しているのか情報共有する仕組みがない。	家族で異なるサービス利用の際、情報共有の仕組みが必要
			・現在ある組織の再構築は難しいと思います。実際に相談に行くと、「それは私の担当ではないので。」という回答の多いこと・・・既得権を行使するのは仕方ないと思いますので、現在の組織の上位により強い権限を持つ、縦貫出来る組織の新設が必要だと思います。	組織横断する強い権限を持つ組織の新設
			・区の職員の研修を強化し、担当部署のみならず区民が利用できる制度について精通し適切に相談に応じられるよう、また担当部署に直に案内するなどの体制を徹底する。	各分野に精通する区職員の研修強化。担当部署に直に案内する体制の徹底
			課題5	
			・行政に区民や関係者からの相談に応じる担当者をおき、定期的に、必要に応じて専門家を入れて検討会を実施する。	相談に応じる行政担当者の配置。定期的な専門家検討会の実施
			課題6	
			・江東区は他区と比較しても、地域会議の開催数が極めて少ないと思います。連携や協働はまずお互いに関係を築いた後に始まると思います。固い会議ではなく、まずは、交流会的なことをしっかりと開催することが必要だと思います。	交流会的な地域会議の開催増加
			課題7	
			・道路に自転車レーンがあるが、車が駐車していて邪魔をしているところがある。	自転車レーンの駐車禁止(制限)
			・一方通行の道に平気で反対駐車や停車をしている車が多いです。子供やお年寄りがその車を避けて通る時にとても危ないシーンが数多く見られます。特に明治通りからURの4丁目団地の横を通る一方通行では小さな子供たちも多く通行し危ない状態が日常化しています。せめて道の右側には駐車や停車が出来ないようにしてほしいです。	一方通行の反対駐車・停車の禁止(制限)
			・障害者や一般区民から意見を聞く機会を定期的に関く。出された意見は広く区民に知らせる。	・障害者や区民から意見を聞く機会を定期開催と意見の公開
同上	同上	同上	課題8	
			・後見人制度は時間がかかって使いづらい。	後見人制度の使いやすさの向上(時間短縮化)
			・生活保護で認知症になると、誰もお金の管理ができない。	生活保護かつ認知症の人の金銭管理の支援
			・今ある制度を利用しようとしても、とにかくスピード感が足りないと感じます。一から新しい制度を作るのはとても大変だと思います。せめて、通常の手続きに加えて、バイパス出来る緊急避難的なルートがあれば常に感じます。	緊急避難的な手続きによる利用までの時間短縮化
			課題9	
			・虐待ケースが増えている。しかし長寿サポートの人数も少なく、他の業務もたくさんあって対応できていない。もっと密に関わる必要があり、人員の補充が必要。	虐待ケースの増加に対応する長寿サポートの人員増加
			・認知症や何らかの障害者だけで暮らす家族では、暴力があっても声を出すことができない。地域での見守りなどで声をあげられる場所が明確にわかると良い。	認知症や障害者の家族では暴力があっても声を出すことができない。地域で声をあげられる場所が必要
			・一般社会的に今まだ虐待やDVそのものについて必ずしも十分認識されているとは言えない。まずは福祉関係者、ボランティアも含め、研修を必須とし、行政及び事業所が定期的実施する。	福祉関係者、ボランティアを含め、行政及び事業所の定期的な研修の実施
			課題10	
			・障害者の権利がしっかり伝わるよう、リモートでもよいので連携して定期的な学習会の開催。	障害者の権利が伝わるよう、定期的な学習会の開催(リモート可)
			課題11	

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
			<p>・登録しても、実際どのような支援をしてもらえるのか、具体的なことがわからない。</p> <p>・災害時のリーフレットはよく見ますが、もっと区や担当部署による啓蒙活動が必要だと思います。今は、時期的には難しいとは思いますが。</p> <p>・車いす、寝たきりの方の対応はどうされるのか、自身に自覚のない認知症の方で、登録さえ出来ない人へはどう配慮し、支援していくのか。</p> <p>・災害時の支援申請や逃げ込む先の場所の確保などどう把握するのか定期的な学習を。緊急時、支援物資や救助などのため信頼できる団体への利用者の情報開示を。</p> <p>課題12</p>	<p>登録者への具体的な支援内容の周知</p> <p>区や担当部署による災害時避難方法の周知が必要</p> <p>車いす、寝たきり、認知症などで登録していない人への配慮や支援</p> <p>災害時支援申請や避難先の確保などの把握、定期的な学習。緊急時の支援物資や救助のため、団体への利用者の情報開示</p>
			<p>・本当の意味での多様性を目指すには、今の世代感でのギャップをどう埋めていくかが一番の課題だと思います。SNSの有効活用に向けた新しいプラットフォームを各世代からまんべんなく集まった人たちによる作成を目指すべきだと思います。</p> <p>課題13・14</p>	<p>多様性を目指すには世代感のギャップを埋めるのが一番の課題</p> <p>SNSを有効活用する新しいプラットフォームを多世代の人による作成</p>
			<p>・世代に加え、価値観の異なる人たちにより共通となるプラットフォームづくりを目指すべきだと思います。</p> <p>課題15</p>	<p>世代や価値観の異なる人たちによる共通のプラットフォームづくり</p> <p>行政主催でケアマネジャーの研修や情報交換会の定期開催を行い、必要な人への周知徹底</p>
			<p>・まずは、ケアマネジャーの研修や情報交換会を定期的に行政が開催し、必要な人に必要な資源、利用できる施設、制度などの周知を徹底する。</p> <p>課題16・17</p>	<p>医療など各機関で連携ができるよう、共有のシステムを作ってほしい。またその補助金が必要。</p> <p>医療など各機関で連携できる共有システムの構築、その補助金</p>
			<p>・介護保険枠内で、人件費を賄うとなると、上限が決まってしまう。江東区として補助金を出し、給料を確保することで、人材の確保が出来る。</p> <p>・職場に沿った研修の提案が必要。現在の研修に加え他区で行っているように、職種別の研修をもっと増やしてほしいです。</p> <p>課題18</p>	<p>区独自の補助金を交付し、介護保険事業所の人材確保</p> <p>職場に沿った研修</p> <p>職種別の研修の増加</p>
			<p>・人材の確保や育成には、まずは生活の安定ありきと思います。生活基盤をしっかりと築け働くことが出来るように、様々な費用支援が急務だと思います。</p> <p>・スタッフ及びボランティアはサービス提供にあたっては、まず利用者の人格・人権を尊重した態度が求められる。そのための定期的な研修を制度化し、行政及び事業所が行うこととする。また必要なスキルを身に着けるための研修を定期的に行うこととする。</p> <p>課題19</p>	<p>生活基盤をしっかりと築ける様々な費用支援が急務</p> <p>行政及び事業所で利用者の人格・人権を尊重するための定期的な研修の制度化</p> <p>必要なスキルを身に着ける定期的な研修</p>
同上	同上	同上	<p>・アナウンス不足で、伴走型支援やアウトリーチ型支援の利用がわかりづらい。</p> <p>・身近な相談窓口を。港区のように区の職員の見守り隊を。情報を持っている区の職員がやってくれることが大事だと思います。</p> <p>課題19</p>	<p>伴走型支援やアウトリーチ型支援の内容周知</p> <p>身近な相談窓口。区職員による見守り隊の実施</p> <p>情報を持っている区の職員がやってくれることが大事</p>
			<p>・他の問いかけにも記入しましたが、江東区は他区に比べて取り組みが表面的だと思います。一概に他が良いとは言いませんが、もっと他区での活動を理解し自身の区に有効活用するために他区の活動を区民と共に視察することが必要だと思います。</p> <p>・障害者の基幹相談センターの設置。</p>	<p>区民と区職員と一緒に他区の活動事例を視察</p> <p>障害者基幹相談センターの設置</p>

通番	年齢	職業	意見	意見要旨
17	*	民生児童委員	<p>課題3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長寿サポートの更なる充実 設置数を増やす、人員の増加、対象年齢の引き下げ等。できるところから。 ・出張所での相談窓口設置 毎日だけでなく、週に一回とか二回とか、全年齢を対象に(障がい者も含めて)開設する。福祉の制度に詳しい職員が来て担当 <p>課題4, 5、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職に近い職員の養成 人事異動における約束事もあるのですが、もう少し長く同じ職務にとどまる。或いは移動するにしても、福祉部の中の違う課に移るとかして、経験と知識を培い、様々な相談に対応できる人材を育成してほしい。(本人の希望や了解も必要なのでしょうが。)その様な人材を、上記出張所での相談窓口にも座ってもらう。 <p>課題7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子供達も使用できる遊具の揃った、ユニバーサルデザインの公園を作る 世田谷の砧公園にできていと聞いた。駐車場のある公園で(木場公園とか猿江恩賜公園とか)、障がい者は無料駐車。 <p>課題8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人後見制度の広報強化 社協が実施している法人後見制度を、区報その他を通じて広く区民に宣伝する。財産の使い込みの恐れのない、安心安全な制度の利用促進を図る。 <p>課題11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者等の避難所周知 先の大雨での避難で顕在化したが、障がいのある方や、車いす利用者の避難のために、電源が使える(医療的な機具が使える)、エレベーターがある、障がい者用トイレの有無、付き添いも一緒にいられる、等々の情報を記載した要支援者避難所一覧を作成し、事前に対象者や、町会・民生委員等に配布する。 <p>課題13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への配慮も充分に 今回のコロナワクチンの接種に関して、発信は盛んに行われていたが、予約するといった返信行為(利用行為)について、インターネットやスマートフォンが使えない世代に対するフォローを事前に検討準備しておく。 <p>課題14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の守秘義務の再考 例えば、長寿サポートと民生委員間の情報共有を一歩進めるため。制度(サービス)利用前の段階の高齢者の見守り支援等に資する。 <p>課題16</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの福祉意識の醸成 区内全小中学校における福祉教育の実施。 <p>課題19</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの福祉意識の醸成 現在人権擁護委員による人権教室が、区内の一部の小中学校で実施されている。また、全国規模で募集される、人権をテーマにした作文募集にも、区内の一部の小中学校が協力している。これを、全小中学校に広げてほしい。 	<p>長寿サポートの充実(設置数を増やす、人員の増加、対象年齢の引き下げ等)</p> <p>出張所での相談窓口設置(週1~2回、全年齢対象(障がい者も含めて))</p> <p>専門職に近い経験と知識を持つ職員の養成</p> <p>障害のある子供達も使用できる遊具の揃った、ユニバーサルデザインの公園を作る(事例 世田谷区砧公園)</p> <p>法人後見制度の広報強化</p> <p>障がい者等の避難所周知 (有用な情報を記載した要支援者避難所一覧を作成し、対象者、町会・民生委員等に配布)</p> <p>ITを利用できない高齢者等への情報対策</p> <p>個人情報の長寿サポートと民生委員間との情報共有</p> <p>区内全小中学校における福祉教育の実施</p> <p>人権擁護委員による人権教室等の全小中学校での実施</p>